

大人のチカラ

4

～子どもたちの未来のために～

香川大学生涯学習教育研究センター長

清國祐二教授に聞く①

身近な地域活動で 子育ての知恵学ぶ

地 域のつながりの希薄化から、子どもに
なっている大人も増えているという現代。
清國教授は「身近な地域活動の中にこそ、
家庭教育力向上のカギがある」と話します。

保護者同士の つながり大切

近年、保護者自身の生活習
慣の乱れやモラル低下が指摘
されています。

「かつて子どものしつけは

親だけでなく、祖父母や近所
の人たちも担っていました。

それが今は核家族化や地域の
つながりが希薄化し、子ども
にどのようにして接し、何を
教えればいいのか分からなくな
っている親が増えていま

す。親自身が学ぶ機会を持つ
ことが大切」と清國教授。

県などが主催するワーク
ショップや講座だけでなく、
子どもの定期健診、PTA活
動など身近な地域活動への参

加を呼び掛け、「保護者同士
が同じ目線に立ち、子育ての
悩みや子どもとの接し方など
を話し合うことで、お互いの

よさに触れ合いながら学んで
いくことができます」と、そ
の有効性を指摘します。

バランス取れた 父母の役割を

家庭内での父親と母親の役
割については「両親がバラ
ンスよく子どもに向かい合うこ
とが大切」といいます。生活
全般に関わる母親はど

も感情的になりやすいもの。
そんな時、父親が冷静に理
性的に対処したり、夫とし

て話を聞いてあげるフォ
ローの姿勢が大切だそう。

「最近、積極的に子育てに
かかわる父親を『育メン』
と呼んで奨励していますが、
おむつを替えたり、食事を

作るというよ
うな母親の代
役で満足して
いませんか。
父親は母親と
の意思疎通や
連携を密にし

て二人でバラ
ンスよく関
わってほしい」とし、子ども
と一緒に地域

の清掃活動へ参加したり、
子どもの友だちも含めて思
い切り遊ぶことなどを提案
しています。「二見、子ども

のためのようですが、保護
者自身が社会性を学ぶ機会
でもあります」。身近な活動

の中にこそ、家庭教育力向
上のカギがあるようです。

